

令和8年6月29日
道路局国道・技術課

道路行政ニーズを実現するためFS研究・短期研究を4件採択します ～「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」募集の審査結果について～

新道路技術会議において、道路行政ニーズを実現するため、FS(フーズビリティスタディ)研究・短期研究として4件採択します。

引き続き、令和8年度のFS研究・短期研究を継続して募集しています。

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合し、道路政策の質を一層向上させるため、平成16年10月より新道路技術会議を設置しています。

今回、令和7年度2月末までに応募のあった8件について新道路技術会議において審議し、別紙の4件を採択することとしました。

※FS研究：本格研究の実施に向けた実行可能性調査として実施するもの

短期研究：短期的に実施可能な小規模な研究開発

<応募の期間>

応募	採択
5月～11月	2件
12月～2月	4件(今回)

<応募要領等>

- FS研究・短期研究 募集要領及び提案様式
(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/shinki/koubo.html>) 国土交通省 HP
- 道路行政の技術開発ニーズ
(<https://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>) 国土交通省 HP

<問合せ先>

道路局 国道・技術課 企画専門官 児玉、係長 中里

代表：03-5253-8111 (内線 37862、37866)、直通：03-5253-8498



FS/短期	道路行政ニーズ	研究テーマ名	提案概要	研究代表者名
FS	提案型研究開発	運輸部門の脱炭素効果可視化と方法論確立に向けた研究	交通・物流領域における脱炭素施策を網羅的に整理し、カーボンクレジット化に向けた算定方法論を検討する。本 FS 研究では、机上調査に基づき各施策の論理構成と制度適合性を検証する。本格研究では、実データを用いた検証や認証機関との協議を行い、具体的なケーススタディを通じた社会実装を目指す。	九州大学 洋上風力研究教育センター 教授 早瀬 百合子
FS	視認性が長期にわたり低下しない路面標識技術	新規有機蛍光色素を用いた雨天時高視認路面標示の成立性検証についての技術研究開発	退色しにくい有機蛍光色素を区画線塗料に添加し、濡れ夜間条件での視認性低下を励起発光で可視化・定量できるかを小面積試験片で検証する。携帯計測で再現可能な指標（蛍光強度・コントラスト等）を確立し、実路実証へ接続する。	昭和医科大学 電子顕微鏡室 教授 高木 孝士
FS	提案型研究開発	積雪寒冷地における強風による通行障害緩和技術に関する研究開発	積雪寒冷地における強風による通行障害の緩和技術として、風力発電による風エネルギー低減効果を活用した防風施設に着目する。本研究では、景観に配慮しつつ、風速低減による視程障害の緩和と効率的なエネルギー回収を両立する施設の在り方を明らかにし、その適切な設置道路区間、設置位置、ならびにサイズ・形状に関する知見を体系的に整理する。	北海道大学大学院 工学研究院 教授 吉井 稔雄
FS	・路盤の支持力を長期的に確保できる排水施設の設計技術 ・アスファルト舗装内部の水分・層間はく離を非破壊で診断する技術	舗装構造の水分起因劣化を考慮した性能評価と排水設計の研究開発	舗装構造の水分起因劣化が支持力及びライフサイクル性能に及ぼす影響を解析的に明らかにし、性能評価手法と排水設計への適用可能性を検証するとともに、将来的な非破壊診断など予防保全型維持管理技術への展開可能性を示す。	北海道大学大学院 工学研究院 教授 石川 達也